

自治研修 あきた

P.3 来年度研修体系

P.4 研修pickup

P.5～自治大学校派遣職員
受講レポート

No.83 令和6年3月発行

秋田県自治研修所 TEL 018(873)7100

一年を振り返って

秋田県自治研修所長 藤原 亨

日頃より自治研修所の運営に関するご理解とご協力を賜り、また当研修所での研修に積極的にご参加いただき、誠にありがとうございます。昨年度に引き続き、今年度を振り返りたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の5類への移行で研修所の雰囲気が変わる

5月に新型コロナウイルス感染症が法令上の2類から5類に移行したことを受け、研修所における感染防止対策も変化しました。これまでは受講者の皆様にマスクの着用をお願いしていましたが、マスクの着用は任意となりました（換気や机の消毒等は継続）。感染症発生時の対応が従来よりも緩和されたことで、以前のような「ピリピリ感」がなくなり、受講者の方も昨年度に比べのびのびと参加いただいていたような気がします。また、研修の運営面においても研修に集中できる環境が整いました。

7月の記録的大雨で研修所の研修が延期となる

移行後はコロナの影響による研修の中止はなく、予定どおりスケジュールが進むと思われていましたが、7月の記録的大雨により研修所の計画も変更を余儀なくされました。

7月の3連休前の14日金曜日から降り続けた大雨により、秋田市を始め県内各地で被害が発生しました。研修所では週明けの18日火曜日から「課長級職員研修」と「管理監督職員研修」を予定していましたが、時間がたつにつれ、被害の状況が明らかになり、急遽16日日曜日に延期を決定しました。

その後も、災害対応にあたる職員が相当数に及び、災害復旧にかかる期間も長期間にわたると想定されることから、当面、8月末までの中止を決定し、参加予定者への連絡や研修を受託いただいている事業者へ連絡をするなど、対応にあたりました。

9月から研修が再開される

9月から研修が再開できるか、気をもんでいたところでしたが、災害対応が一段落したところから、研修を再開することができました。

7月、8月に予定していた研修は、当初計画している研修も踏まえ、講師のスケジュールを再調整しました。過密な日程となりましたが、11月末までに、講師の都合で中止となった1講義を除き、おかげさまをもって予定どおり無事終了させることができました。

11月は研修室が寒く感じることもあるため、当初の予定ではオンライン研修を優先する予定でしたが、日程変更の結果、11月末まで集合研修を行うことになりました。結果として、寒い思いをさせた方々が多くいらしたと思います。また、スケジュールの変更により、参加できなかったり別の研修に参加したりする方もいらっしゃいました。不可抗力とはいえ、このような事態となり、深くおわび申し上げます。

「役職定年職員研修」を実施

今年度から定年引上げ制度が始まり、県では、来年度役職定年となる県職員の方々を対象とした「役職定年職員研修」を1月に開催しました。初めての実施で研修所としても手探りの状態での実施となりました。

終了後に行ったアンケートでは、ご参加いただいた方々から様々な意見をいただきました。「先行事例がなく不安があったが、受講者同士の交流時間があり、ありがたかった」という意見があった一方で、研修内容や研修時間など修正すべき点も見受けられ、いただいたご意見を来年度以降の改善に反映したいと考えております。

来年度の研修の変更点

研修が終了に近づくと、次年度の研修計画の準備が本格化してきます。今年度実施した研修の結果を振り返り、来年度のプログラムに反映させています。

来年度の研修では、大幅な変更点が幾つかあります。

まず、新規採用職員研修について、研修期間や実施方法、内容を見直します。前期研修については、これまで所属別に日程を設定し、県職員が5日間、市町村職員が4日間、関係団体の職員が3日間としておりましたが、来年度からは所属に関わらず新卒者向けの日程を3日間、職務経験者向けの日程を1日とし、一部の科目は動画視聴方式に変更することとしました。これにより、全ての新規採用の職員が従来よりも早い段階で前期研修を修了することができるようになります。また、後期研修についても、見直しを行いつつ内容の充実を図っていきます。

その他、サブリーダー・地方リーダー向けの研修の新たな実施や、これまで女性職員を対象としていた「キャリアデザイン研修」について、男性職員も対象とするなど、組織や社会の変化に対応した見直しを行っています。

終わりに

最後になりますが、今年度も、研修に参加する方々を快く送り出していただき、研修に参加しやすい職場環境を作るためにご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。来年度も、研修を受講する職員が引き続き研修に専念していただけるよう、ご支援をお願いいたします。



- 左) 新規採用職員研修
- 中央) 事業スクラップ研修
- 右) 新規採用職員研修 班で協力し積み上げたストロークタワー

GOOD!!



令和6年度に自治研修所で実施する研修

役職段階別指定研修（7科目）

新規採用職員研修【合同】
※新卒者と職務経験者で日程が異なります。

- Renewal** 3年目職員研修【合同】
- Renewal** 主査級職員研修
- NEW** サブリーダー／地方リーダー研修
- 管理監督職員研修
- 課長級職員研修
- Renewal** 人事評価者研修

組織力向上研修（4科目）

キャリア開発研修

Renewal キャリアデザイン研修

役職定年職員研修

現業職員研修

市町村職員研修（6科目）

新規採用職員研修【合同】
※新卒者と職務経験者で日程が異なります。

- Renewal** 3年目職員研修【合同】
- 主任級研修
- 監督者級Ⅰ研修
- 監督者級Ⅱ研修
- 市町村人事評価者研修

能力開発研修（25科目 およびeラーニング）【合同】

主に一般職員向け（15科目）

- 行政法基礎
- 民法基礎
- 業務に役立つ法令の読み方【地区別】
（オンライン①）
- データの見方・活かし方（オンライン②）
- 段取り力向上
- ワンペーパー資料作成
- 伝わる話し方・説明の仕方
- 業務改善の進め方
- 基礎から学べる政策形成
- 発想力トレーニング
- 情報発信力強化
- 成功するプレゼンテーション（オンライン②）
- クレーム対応力
- レジリエンス向上（オンライン②）
- Renewal** アサーティブ・コミュニケーション

主に役付・管理監督職員向け（10科目）

- Renewal** 実務に活かせる政策法務
- 財務3表一体理解・分析法（オンライン②）
- 事業スクラップ
- エビデンスに基づく政策立案（EBPM）
- 折衝・交渉力強化
- Web会議スキル向上（オンライン②）
- インバケットによる実践トレーニング
- コーチング
- Renewal** 働き方改革のための業務マネジメント
- リスクマネジメント

eラーニング

- 県職員は応募研修（自己啓発）とし、一定の科目数及び時間以上の受講を推奨
- 市町村・団体職員は一定科目数及び時間以上の受講が修了要件

（備考）

- 1 「能力開発研修」は、選択研修（必修）・応募研修
- 2 「合同」とは、県職員と市町村職員による合同研修
- 3 オンライン①：講師のみリモート、受講者は県北、中央（自治研修所）、県南会場で受講する分散型集合研修
オンライン②：講師及び受講者がリモートの完全オンライン研修



研修プログラム等詳細については、「令和6年度研修概要」をご確認ください。

研修 pick up

今年度実施した能力開発研修の中から、3つの研修をピックアップし、ご紹介します。

どの研修も熱量のある研修で、講師の言葉を聞き漏らすまいとメモをとる受講者の姿が印象的でした。

段取り力向上

こんな人に
オススメ!

- ・自分のスケジュールの立て方を見直したい
- ・仕事が思うように進まず焦りや不安を感じやすい

研修では、「ある人物の行動や思考パターン」を題材に、仕事の優先順位のつけ方や、スケジュールの立て方などを学びました。事例ごとに、グループワークでの話し合いの時間がとられ、問題点や改善点について活発な意見交換がされていました。また、「段取り力」「先延ばし癖」についての質問に答えることで自分の仕事の進め方の傾向を知ることができ、多くの発見と気づきがあった研修となりました。

受講者からは、「仕事が進むようになり気持ちに余裕ができた」との感想があり、研修効果を実感している方も多いようです。

- ・段取り良く仕事を進める上での自身の弱点が把握できた。
- ・計画を立てる際の注意点、優先順位のつけ方など例を基にグループで深く考えることができた。業務に活用できると思った。

受講生の声



クレーム対応力

こんな人に
オススメ!

- ・クレーム対応で困っている
- ・クレームに適切に対応したい

情報・サービスの氾濫（携帯電話やネットの普及等）、価値観の多様化、我慢できない風潮、組織への要求の変化などにより、近年クレームはますます増加する傾向にあります。地方公共団体もその例外ではありません。しかも、個人だけでは対応できないような、難しいクレームが増えてきています。

研修では、そんなクレームへの基本姿勢・手順や電話対応のポイントなど、職場に戻ってから実際に使うことができる実践的で即効性のあるスキル・ノウハウを数多く学ぶことができました。

受講生の声



- ・クレーム対応にどのように対応したらいいのかわかり、楽しく学ぶことができた。今回学んだ聞き方・話し方等を仕事に活かしていきたい。
- ・受講後の電話対応においては、「始まりと終わりには、相手に感謝の気持ちを伝える」ことを意識している。



コーチング

こんな人に
オススメ!

- ・部下とのコミュニケーションの取り方に悩んでいる
- ・コーチングの手法を習得したい

コーチングの3つのスキル「傾聴」「質問」「承認」、これらのスキルのポイントを学び、演習を通して習得していく研修です。グループでの演習が多く、椅子のみの配置としていることも特徴です。

演習では、聞き手、話し手、観察者でグループを構成し、役割を交代しながらロールプレイしていきます。

所属や職種の異なる相手との演習で、緊張感がありつつも実践的な体験ができました。部下への指導だけでなく、職場でのコミュニケーションにも活用できる内容となっていました。

- ・「傾聴」「質問」のスキルは大変参考になった。職場ミーティングで活用したい。
- ・実際にロールプレイすることで、受容し肯定的に受け止めることの大事さを理解できた。

受講生の声



自治大学校派遣職員 受講レポート *Study report*

今年度派遣された2名の職員から受講レポートをいただきました。



東京事務所総務企画課

主任 宇佐美 元気

1. はじめに

東京都立川市にある「自治大学校」へ、東京事務所付けで1年間派遣されました。

一般的には自治研修所付けとなり、自治大学校での研修が行われる期間のみ派遣され、それ以外の期間は自治研修所で勤務します。

私は1年間自治大学校へ派遣という機会をいただき、4月～10月中旬までは自治大学校職員として勤務、10月中旬～3月初めまでは研修を受講、3月初め～3月末まで改めて自治大学校職員として勤務しております。

2. 自治大学校での勤務

自治大学校では、特別研修生という1年間派遣される制度があり、「研修受講だけでなく、研修の企画・運営、調査研究等の実務に参画することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図り、地方公共団体における将来の幹部職員の養成に資すること」が目的となっております。

今年度の特別研修生は私以外に、さいたま市、福井県、岡山県、熊本市などから計12名がおり、1年間自治大学校内の寄宿舎で寮生活をしながら、業務に従事しております。自治大学校は総務省の機関で総務省職員もいるため、自治体で副知事や部長級を歴任された方々とも一緒に仕事をしており、業務の進め方や考え方など、学ぶことが多々あります。

特別研修生は主に研修課程を担当し準備や運営などを行いますが、私は都道府県や政令指定都市、中核市等の職員を対象とした「第1部課程第140期研修」を担当しました。5月のGW明けから9月中旬までの約4か月間ある最も長い研修であり、全研修の中で最も業務量が多く、常にマルチタスクを要求されるなど非常にハードでした。

研修では多くの講義が設定されており、公共政策や行政経営のほか、地方公共団体を巡る最新の話題に関する講義もあります。DX推進や行動経済学、デザイン思考などもあり、国や世の中の情勢・動きをリアルに体感できたのは貴重な経験でした。

また、普段接することのない著名な先生方と講義の調整等のやりとりをする機会もあります。個人的には大学時代に憲法を学んでいたこともあり、憲法学者の渋谷秀樹先生と関わる機会をいただけたことに感動し、秋田に戻ってから連絡できる関係性を築けたことが大きな財産の1つとなりました。

研修運営を通じて受講している研修生とも関係性を築け、通常よりも多くの仲間を作れたことも貴重な財産となりました。

3. 第1部課程の研修受講

10月中旬からは約4か月半の研修を全国の自治体職員とともに受講しました。

私自身は上記の研修運営と並行して、自身も受講する「第141期研修」の準備もしており、一方的にともに受講する研修生を知っていたため、入寮日にお会いできたときは非常に嬉しかったです。研修は9時25分から遅いと18時25分まで講義や演習課目があり、前半は法律課目（行政法、地方自治法、地方公務員法等）や財政課目（財政学、地方税財政制度等）が中心です。特に法律課目は「効果測定」という名の試験があり、直前には研修生と情報共有しながら

試験勉強をしたため、学生時代を思い出しました。

後半は、自治体政策（防災、バス等の公共交通維持、まちづくり等）やマネジメント等の講義、何人かの班に分かれての演習課目が中心です。その中でも1番のメインが「政策立案演習」です。1班5～6人で編成され、具体的に対象自治体を選定して課題解決に向けた政策提言を行うものです。私の班は長野市を対象としてシカ等の鳥獣被害対策とジビエ振興をテーマに行い、現状分析や課題等を深く調べて議論、先進地視察等を行いました。また、総務省OBによる指導もあり、「現状分析～課題～政策提言～効果・検証」が一貫していないと詰められるなどハードではありましたが、必死に付いていった結果、2位となり表彰されたことは非常に嬉しかったです。また、デモタの見方、問題発見能力など、多くのことを学ぶことができ、成長できたのではと実感しました。

講義時間外や土日にも課題などに追われるなど忙しい日々でしたが、宇都宮へ餃子祭りに行ったり、高尾山に登ったり、寮の同じフロアの研修生の誕生日会を行うなど、研修生として多くの思い出も作ることができました。



高尾山登山 (宇佐美主任:中央看板横)

年齢層は20代後半から50代前半まで様々でしたが、分け隔てなく楽しく過ごした日々は毎日が充実しており、この研修を受講できて本当に良かったと感じております。



研修生の誕生日会 (宇佐美主任:最後列中央)

4. 最後に

昨年度は省庁派遣、今年度は自治体派遣と2年間、東京生活を送りました。このような機会をいただき、この場をお借りして感謝申し上げます。今回の研修を通して、物事の考え方や仕事への向き合い方だけでなく、人生観も変わりました。今回の研修で学んだことを活かし、学びを続けていきたいと感じています。

また、研修を通して全国の自治体職員に大切な仲間ができました。研修生には北陸地方の職員もおり、1月1日に発生した能登半島地震の際は、みんなで安否を確認しあい、全員の無事が確認できたときは本当に安堵しました。これからも今回の縁を大切に、交流を続けていきたいと感じています。

最後になりますが、少しでも自治体での研修受講を迷っている方がいれば、ぜひ背中を押したいと思います。そして、自治体での経験を生かし、引き続き秋田県職員として業務に邁進したいと思います。



政策立案演習表彰式 (宇佐美主任:左から3番目)



1. はじめに

自治大学校のある東京都立川市は私が大学生の頃に県職員を志して公務員予備校へ通った思い出の地です。

当時ペDESTリアンデッキの案内板で毎日のように見ていた「自治大学校」の文字ですが、まさか自分がお世話になろうとは思ってもありませんでした。入庁11年目を迎えた今年、自治大学校第1部課程第141期への派遣という貴重な機会をいただき、再び立川の地を踏むことになりました。



2. 講義について

入校直後は憲法や地方自治制度などの法制科目が中心です。私には法律に対する苦手意識があり、理解できるか不安でしたが、入校前にeラーニングでの予習が課されていたため、スムーズに講義に入ることができました。法律の教科書の著者として名を連ねる豪華講師陣は親しみやすい方が多く、楽しく受講させていただきました。

この法制科目の特徴は、座学と演習がセットになっている点です。グループで判例の検討を行ってレポートにまとめ、議論の結果を研修生全員の前で発表します。判例百選には悪戦苦闘しましたが、仲間と議論を重ねることで自分なりに考えを深めることができました。

また、法制科目では期末に「効果測定」と称する筆記試験が行われます。試験直前には、深夜まで参考書とポケット六法を携え図書館で勉強する日々が続きました。

法制科目が落ち着くと、公共政策や行政経営に必要な知識スキル、DXの最新事情等に関する講義が中心となります。その道のスペシャリストとして招聘された講師の方々にはもちろん自治体の実情にも詳しく、刺激的な講義が次々と展開されまし

た。行政のプロに求められる知識の多さに圧倒されるとともに、情報をアップデートしていくことの重要性を実感しました。

3. 演習について

演習科目にはデータ分析演習やディベート演習、条例立案演習などがあります。それぞれの演習が付け焼き刃では対応できないボリュームで、念入りな準備が求められましたが、演習毎に異なるグループ編成となるので、さまざまな研修生と親交を深め、その人柄に触れることができました。



模擬講義演習

ファシリテーション



カリキュラムで最も重要なウェイトを占めるのが政策立案演習です。私たちのグループは5人で、仙台市を対象とした子育て支援に関する調査・提言を行いました。データ等のエビデンスに基づいて必要な政策を導き出すことはとても難しく、皆で議論しては頭を抱える日々が続きました。それでも、教官にアドバイスを仰ぎながら5人で最後まで諦めずに取り組み、3か月かけて30ページにわたる報告書を完成させることができました。また、最終発表会のプレゼンテーションでは実力以上のパフォーマンスを発揮することができ、審査員から好評価のコメントをいただきました。会場でメンバーと喜びを爆発させたことは研修中最も印象に残るシーンとなりました。

4. 寮生活について

同期 45 人が麗澤（れいたく）寮の 7 階と 8 階に分かれて生活しました。個室にはユニットバスがあり、収納も充実していて快適に過ごすことができます。周囲には視界を遮る建物がないので部屋からは富士山も見えました。フロア毎に談話室があり、夜になると研修生が集まって地元から持ち寄った日本酒を嗜んだり、情報交換したりしました。壁にぶつかったときにはフロアの同期で悩みを共有し、励まし合いました。

また、新型コロナの 5 類移行に伴って、数年間実施を見合わせていた郷土の銘品を持ち寄る「味覚祭」や卒業前夜の「卒業パーティー」等のイベントも解禁され、自治大の伝統行事を経験することができました。このほか、クリスマスパーティーや節分の豆まき、週末を利用した旅行等の企画もありました。



（大川主任・餃子のオブジェ右後方）
宇都宮ツアー

LRT 乗車

5. 能登半島地震の発生

年末年始の休講期間中、令和 6 年能登半島地震が発生しました。金沢市や富山市の研修生が帰省先で激しい揺れに見舞われ、避難所の設営に携わったという話も聞きました。彼らがこのまま戻って来れないのではないかと、休講期間中はとても心配しました。幸い講義再開のタイミングで全員が自治大に戻り、受講継続となりましたが、研修ができる環境は当たり前なものではない、一

日一日を大切にしようという思いが強くなりました。

その後の講義では、能登の話題が繰り返し登場するようになりました。被災地を回ったという講師からは、避難所や道路インフラ等の変な状況について写真を交えての報告がありました。地方財政の講師からは災害と財政措置との関係について説明がありました。やはり災害対応の最前線で活動される方の話は説得力が違います。防災は行政の要であり、不測の事態に対応するには日頃から職員一人ひとりがなすべきことを把握し、準備しておくことが不可欠だということ改めて学びました。

6. おわりに

夜間や休日を問わず課題に取り組まなければならない時期もあり、つらさを覚えることもありましたが、素晴らしい仲間とともに学び、苦楽を分かち合ったこの 4 か月半はかけがえのないものになりました。立川での新たな思い出は大切なものでいっぱいです。

研修期間中の自治大では都道府県・政令市・中核市の職員を対象とした第 1 部課程のほか、一般市町村を対象とした第 2 部課程や、女性職員を対象とした第 1 部・第 2 部特別課程など様々なコースが実施されており、県内の市町村から参加している研修生と交流する機会もありました。県内自治体に勤務されている皆さん、チャンスがあれば積極的に参加を検討いただければと思います。

最後になりますが、研修の機会を与え快く送り出してくださった職場の皆様、自治大でお世話になった講師、職員の皆様、そして一緒に学んだ研修生の仲間達に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

（大川主任・後列一番右）
熱海ツアー

